３　番	山内　精一郎　議員

質問タイトル（大項目）	質問項目（中項目）	具体的質問内容（小項目）
地域の暮らしを支える公共交通の再設計について **【質問趣旨】** 地域公共交通は、高齢者の通院や買い物、子どもたちの通学、子育て世代の移動、さらには地域経済や市民の社会参加を支える、まちづくりの重要な基盤である。 一方で、人口減少や高齢化の進展、運転手不足、燃料費や人件費の上昇など、公共交通を取り巻く環境は大きく変化している。 本市では、基幹バスやコミュニティバス、住民バスなどを運行しているが、これからの公共交通を考える上では、既存の路線や運行形態を維持することだけを前提とするのではなく、市民の移動実態や	（１）　地域公共交通の現状と交通空白地域の捉え方について	①　本市は、通勤・通学、買い物・通院など日常生活の移動を確保し、持続可能な公共交通を形成するために、公共交通とまちづくりが連携した実施計画として地域公共交通網形成計画を策定している。計画が最終年度を迎える本年度末において、地域公共交通の現状をどのように評価し、また、現在の本市の地域公共交通が抱える課題をどのように認識しているのか、見解を伺う。 ②　本市が考える「交通空白地域」とは、公共交通の駅または、停留所からの距離だけでなく、坂道や道路環境、高齢者や障害のある方の移動能力などを考慮しているのか、定義の基準について伺う。 ③　今後、交通空白地域の解消に向けて、既存の路線や停留所の見直しを含め、どのように解消の方策を検討していくのか、見解を伺う。

備考　１．必ず、大項目を【１、２、３・・・】、中項目を【（１）、（２）、（３）・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
２．数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
３．ＭＳ明朝体、１２ポイントで記載する。

３　番	山内　精一郎　　議員

質問タイトル（大項目）	質問項目（中項目）	具体的質問内容（小項目）
地域ごとの特性に応じて、交通体系そのものを見直していく必要がある。 　本市においても、令和９年度から始まる新たな地域公共交通計画を契機として、既存の交通手段にとらわれず、地域の資源を有効活用した持続可能な交通体系を構築する必要があると考える。 　そこで、今後１０年間を見据えた本市の地域公共交通の現状と課題、そして持続可能な地域公共交通について伺う。	（２）基幹バス・コミュニティバスの運行実績と今後のあり方について	①　これまでの市内基幹バス、コミュニティバスについて、利用者数、収支率、の推移をどのように分析しているか、見解を伺う。 ②　特にコミュニティバスについては、利用者数が増加している一方で、収支率が目標に達していない現状をどのように評価し、その要因をどのように分析しているか、見解を伺う。 ③　今後、運行経費が増加し、収支率が悪化した場合の、運行本数、運行時間帯、車両規模、ルートなどの適正化の方策について、見解を伺う。 ④　収支率や利用者数だけでは、通院・買い物・通学など、地域の生活を支える交通の役割を十分に評価できないとも考える。今後の各路線の維持・改善を考えた場合、料金体系の適正化の検討について、見解を伺う。 ⑤　人口減少や利用者の変化、運行経費の上昇を踏まえ、将来の財政負担をどこまで負担すべきなのか。公共交通の維持に必要な市の財政負担の見通しについて、見解を伺う。

備考　１．必ず、大項目を【１、２、３・・・】、中項目を【（１）、（２）、（３）・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
　　２．数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
　　３．ＭＳ明朝体、１２ポイントで記載する。

３　番	山内　精一郎　議員

質問タイトル（大項目）	質問項目（中項目）	具体的質問内容（小項目）
	（３）子どもたちの通学と子育て世代を支える交通について	①　令和９年度からにじの丘学園の通学バスにおいて運用が見直される。 運用の変更点として具体的には、運行協力金は現状の年６，０００円から２倍の１２，０００円へ増額される。バスの運行ダイヤについては、利用希望者が多く、現在の便に乗れない場合、朝は現在の７時２３分より １ 本早い７時１２分の便を使用することとなり、登校・下校も６便体制へと変更となる。 運用変更の理由も含め、利用者数や乗車定員、混雑状況、通学環境への影響をどのように見込んでいるか、見解を伺う。 ②　本市の通学に関しては、基本的に可能な限り徒歩通学を前提としており、自転車通学については、利便性はあるものの安全性や生徒の体力面から使用していないものと認識しているが、改めて、児童生徒の徒歩通学の考え方を伺う。 ③　にじの丘学園に限らず市内各学校の通学環境については、近年の猛暑や地域の実情に応じて、交通手段の確保や徒歩通学の見直しを検討していく必要があると考えるが、見解を伺う。

備考　１．必ず、大項目を【１、２、３・・・】、中項目を【（１）、（２）、（３）・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
２．数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
３．ＭＳ明朝体、１２ポイントで記載する。

３　番	山内　精一郎　議員

質問タイトル（大項目）	質問項目（中項目）	具体的質問内容（小項目）
	（４）令和９年度からの新たな地域公共交通計画と今後１０年間の展望について	①　令和９年度から始まる新たな地域公共交通計画について、策定の進捗状況と、計画に盛り込む基本的な考え方や重点課題について、伺う。 ②　新たな計画では、利用者数だけでなく、収支率、運行経費、市の財政負担、交通空白地域の解消、市民満足度など、現行計画の評価を反映し、これまでの取り組みの成果と課題を引き継ぐ必要があるが、見解を伺う。 ③　これからの１０年間、本市の地域公共交通をどのような姿にしていくのか。国土交通省が掲げる「地域公共交通のリ・デザイン」の考え方を踏まえ、市民、交通事業者、企業、各種団体と連携し、持続可能な本市の交通体系を構築するために何が必要となるか、市長の考えを伺う。

備考　１．必ず、大項目を【１、２、３・・・】、中項目を【（１）、（２）、（３）・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
２．数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
３．ＭＳ明朝体、１２ポイントで記載する。